

学校教育目標

- 1 丈夫で明るく はきはきした子ども
- 2 よく考え 進んで工夫する子ども
- 3 みんな仲よく きまりを守り 責任感の強い子ども。
- 4 ものを大切に し 感謝の心をもつ子ども
- 5 進んでみんなのために働く子ども

東柏通信

第3号

平成29年7月19日(水)発行
海老名市立東柏ヶ谷小学校
電話 (046)232-3716

ホームページ

<http://www.touhacusyo.edu.city.ebina.kanagawa.jp/>

いきいき のびのび ちからいっぱい 笑顔で輝く子 ～命 かがやく 東柏っ子～



<はじめに>

いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきます。保護者、地域の皆様には、様々な場面で本校の教育活動に温かいご支援やご協力をいただきありがとうございました。

1学期の間子どもたちは日々の学習や友達との生活、学校行事等を通して大きく成長してきました。

この約4ヶ月間、1日も休まず登校した子、毎日計算練習を続けて計算力を身に付けた子、学習中の姿勢に気を付けて聞く力が高まった子、友達にいつも優しく接した子、掃除に黙々と取り組んだ子・・・など、それぞれの頑張りや成長がありとてもうれしく思います。

自分のよさを見つめ自分に自信をもつことは大切なことです。いわゆる『自尊心』が高く、「自分は素晴らしい存在だ」と感じることが出来る子は、物事への取り組み方が意欲的です。また、友達など他の人も大切にすることが出来ます。自分のよさを感じさせながら楽しく有意義な夏休みを迎えさせたいものです。

<体験にまさる教育なし>

〇さて、これから始まる夏休みは、長い時間を利用して子どもたちが様々な体験活動や、読書やお手伝い、地域のイベント、少年少女スポーツクラブに参加する等に取り組むのにとってもよい機会です。この間、生活場面の中心が、家庭や地域となるこの機会を利用して、学校からの課題以外に、夏休みだからこそできることにもぜひ取り組んでほしいと願っています。親子で時間や場所を共有する機会をもつことも意義あることと思います。

この夏休みが、子ども達の自主性や積極性、計画性を高めたり、身体を鍛えたり、人との豊かな関わり方を学んだりする機会となるように、また、健康で楽しく安全に過ごせますよう、家庭でも地域でも子どもたちへの目配りや声かけや適切な助言をお願いします。

<情報共有、信頼関係に感謝>

〇明日で、東柏ヶ谷小学校は一学期の終業式を迎えます。始業式から本日までの73日間、子どもたちは、元気に笑顔で登校し、日々先生方や友だちから多くのことを学ぶとともに、様々な課題に出会った時には、解決に向けての努力を重ねその学年に相応しい力を積みあげてきました。解決に至る指導にいたっては、情報を共有し学校を信頼していただき大いに感謝しております。

<あゆみについて>

〇明日持ち帰る「あゆみ」には一学期の学習や生活についてその様子や状況が記されています。「あゆみ」はお子様の現在の状況を知り、お子様のよさを再認識したり、これからの学習や生活についての努力点を見出す手がかりとなるものです。学習・学校生活の状況及び所見・観点別学習状況、3年生から6年生は総合的な学習の時間の状況、すべての欄を総合していただき、自信をもたせたり、目標をもたせて励ましたり、よりよい自分を創りあげるための資料として活用していただきますようお願いいたします。

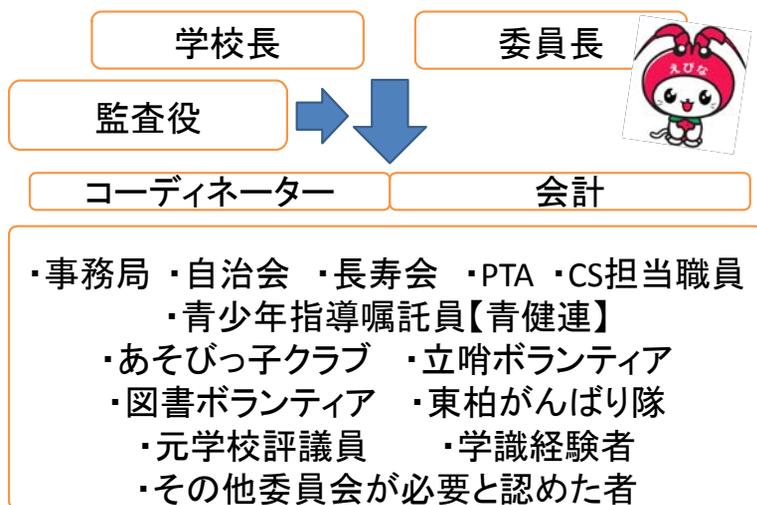
〇一学期間、子ども達の学習や生活の基盤をしっかり築いていただいた保護者の皆様、子ども達の学習活動、安全や健全育成のために様々なところで応援していただいた地域の皆様、少年少女スポーツクラブや子ども会、熱心な読み聞かせをしていただいた図書ボランティアの皆様等、そして、学校運営をご理解していただいている近隣の皆様方に改めてお礼申し上げます。

○最後になりますが、子どもたちが健康で、安全に過ごし、笑顔あふれる元気な顔で8月28日(月)に登校することを教職員一同待っています。

<2年目、コミュニティスクール(学校運営協議会)について>

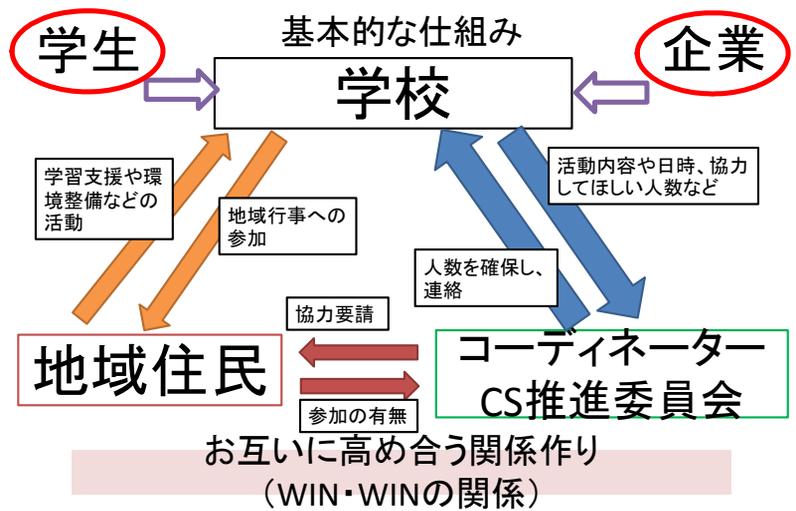
○昨年7月1日より教育委員会の委託によりコミュニティスクールの推進校となり2年目を迎えました。コミュニティスクール推進委員会は20名以内で組織します。自治会の代表の方をはじめ、前学校評議委員・あそびっこパートナー、PTA代表、図書ボランティア、東柏がんばり隊(おやじの会)、東柏ヶ谷小学校区連絡協議会会長、東柏っ子応援団委員長やコーディネーター、長寿会、青健連、がんばり隊(おやじの会)、立哨ボランティアの代表の方々、事務局、地域連携の職員、その他協議会が認めた方で構成します。

コミュニティスクール(CS)学校運営協議会組織図



【コミュニティスクール組織図】

学校とコーディネーター・地域の連携



【学校と地域の基本的な仕組み】

○学校と地域の基本的な仕組みは次のようになります。

○まず、学校と地域住民をつなぐパイプ役を担っているのが、委員長と地域コーディネーターです。本校では委員長に芳賀元校長先生、コーディネーターは元PTA会長の蓮沼さんと折笠さんをお願いしています。

○学校側から、活動内容や日時、協力してほしい人数やねらいなど、具体的なことをコーディネーターに連絡します。この時、学校側の窓口となるのは、CS担当職員の重岡教諭、増村教諭です。各学年から出てきた要望を伝え、必要がある場合は、コーディネーターや委員長との打ち合わせの時間を設定します。

○連絡を受けたコーディネーターは、地域の方に協力要請の連絡をします。協力して欲しい内容に合わせ、個々に連絡をとるか、多くの方に声をかけるか、判断します。多数に呼びかけるときには、CS推進委員が中心となり、自治会長さんや長寿会さんなどにも協力してもらいます。

○その後、地域住民の参加集約をし、学校側にコーディネーターが連絡をします。必要があれば、学校側から参加者に対する文書の作成や連絡をします。活動については地域の方々と打ち合わせをもち、めあてや活動を確認します。子どもたちからは感想やお礼の手紙を学習活動の中で作成し渡すこともあります。

○そして、地域の方が学校に来て、活動をします。運動会の前日のテント張りや校庭整備、2年生の学区探検では各丁目の自治会や立哨ボランティアの皆さんにお世話になりました。6年生の「地域に愛着をもつ教育課程」を実践した、「東柏ヶ谷小学校の誕生」では、5丁目の元PTA会長の清成さんからお話をいただくこともできました。

また、昨日は「たんぼぼ級の夏まつり集会」で、絵手紙(うちわ版)やおもちゃづくりの作品作り、さらに盆踊りを教えていただきました。多くの地域の方々が子ども達に体験の場を提供してくださり感謝しております。

○学校側からは、地域行事への参加という形で、地域に出て行っています。15日(土)に行われた夏まつりにも職員が参加させていただきました。子ども達や保護者、地域の皆さんと楽しむことができました。

○お互いに高めあう関係づくり、お互いに得るものがある関係づくり WIN-WINの関係ということを頭に置いて連携協力をしているところです。

○今後はほかにも、新体カテストの応援をはじめ、屋上の菜園やビオトープの環境整備、立哨ボランティアの方々ばかりでなく、地域をあげての登下校をはじめとする子どもの安全確保やあいさつ運動、さらに、昔遊び交流や茶道体験、絵手紙、ミシンボランティア等学習支援等、保護者、地域の皆様のお力をお借りしながら「社会に開かれた教育課程」の実践を進めてまいりたいと考えております。